

No.620 (改題580号)
2023年
3月22日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

5・3兵庫
憲法集会
プレ集會

軍事力強化は国民負担に
防衛 ジャーナリスト 半田滋さんが講演



180人が参加して岸田政権の大軍拡を批判する半田滋さんの講演に学んだ=3月7日、長田区文化センター

「防衛力の抜本的強化」の名のもとに、「専守防衛」を逸脱して先制攻撃が可能になる敵基地攻撃能力の保有を含め、今後5年間で防衛費を対GDP比2%にと17兆円増の43兆円を計上するなどの大軍拡路線の推進を決めた岸田政権。こうした岸田政権の安保政策の大転換「戦争国家」への暴走を許してはならないと、「戦争させない、9条壊すな」総がかり行動兵庫県実行委員会」は、今年1万人規模での開催を呼びかけている恒例の「5・3兵庫憲法集会」の成功に向けたプレ企画として3月7日、「5・3兵庫憲法集会プレ集會」を長田区文化センターで開き、防衛ジャーナリストの半田滋さんの講演に学んだ。集會には約180人が参加した。



講演する半田滋さん

集會の冒頭、主催者を代表してあいさつした羽柴修弁護士(弁護士9条の会)は、「安保3文書」改定を批判し、ねらいは国家総動員体制の構築で、国民にその決意まで促している内容の一部を紹介。戦争に向かって進むこの危険な道を阻止する

運動の強化を、と訴えた。「敵基地攻撃と日米一体化」防衛費倍増は国民負担に」と題した講演では、半田さんはまず、「二安保3文書(国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画)改定の内容の解説から始め、敵基地攻撃能力の保有は、安倍元首相の退任時の談話をきっかけに、自衛隊と米軍の一体化と自衛隊の軍備増強をベースに自民党の悲願となり、国民をだまし続けてきた議論の果てだと指摘。敵基地攻撃は、集団的自衛権の行使を認めた以上は、先制攻撃にならざるをえず、その能力の保有は、抑止力を高めることにならず、東アジアの不安定化を呼び込むだけだと批判した。さらに、防衛費の対GDP比2%の問題についてもその内容を詳しく紹介。

物価高を超える賃上げが求められる23春闘のなか、国民春闘神戸地区共闘会議とひょうご地域労働運動連絡会共催の「23春闘講演会」が3月1日、神戸市中央区の兵庫県民会館で開かれた。中小労組や個人加入者でつくる札幌地域労組の鈴木一朗委員長が、「春闘と労働組合の社会的役割」23春闘で私たちがなすべきことをテーマに、オルガナイザーとしての豊富な経験に基づいて組合活動について分かりやすい講演を行った。

ひょうご地域労働運動連絡会らが
23春闘講座を開催
鈴木一さん(札幌地域労組委員長)が講演
3・1 神戸市

介。これまで政府が憲法上保有できないとしてきた大陸間弾道ミサイル、長距離戦略爆撃機、攻撃型空母などの実質的な保有を自衛隊が進めていることを明らかにするとともに、日米軍事一体化のもとで米政府の意のままに兵器購入を進め、際限

のない軍拡への道を歩み始めていると指摘し、この財源は、結局は税金に求めることとなって(最終的には消費税か)、国民の負担増となっていくと批判した。

また、23年度防衛費予算で自衛隊の艦艇、潜水艦、施設建設に建設国債を充てることについて、巨額の国債発行が戦争拡大につながった戦前・戦中の歴史の反省を踏みにじるものであり、戦前回帰の道だとも批判した。最後のまとめとして、平和は軍事力でなく、命懸けの外交によってはじめて実現すると強調した。

転手不足による長時間労働や公休出勤の解消に向けた賃上げの取り組み、神戸ワーカーズユニオン神戸電化工業分会の組合つぶしをねらう不当解雇の撤回を求める裁判闘争の取り組みだ。

結とは」などについて自身の組合活動の事例をいくつも報告。介護職場の腰痛防止対策をめぐり、法人からは「歳のせい」や「太っているから」と個人の体質とされたが、「休めば腰痛は治るもの」を根拠に15日間の腰痛特別休暇を要求、4年目の春闘交渉でその要求が実現し、人手不足の解消につながったという成果も紹介された。(菊地)

ひょうご(138)
描き歩き
JR宝殿駅から南西に徒歩25分の所に日本三奇に数えられる「石の宝殿」がある。因みに残る2つは仙台塩釜神社の塩釜と宮崎県霧島神社の天逆鉾。日本三奇とは、江戸時代に諸国を旅した橋南翁という医者が自著の中で不思議スポット「3つの奇跡」として古代の遺物を紹介したものだ。

石の宝殿
(高砂市阿弥陀町)

中央部で乗っかるように据えられているので、一見この石が水に浮かんでいるように見えることから「浮石」とも呼ばれている。いつ誰が、何のために造ったかわからないが、古代、この地の豪族が巨大な石の神殿を造ろうとしたが途中で中止されたものだろうと考えるのが自然なところか。『播磨風土記』には物部の守屋が造らせたと言われている。



【おことわり】次号の発行は統一自治体選挙の都合により4月26日(水)付の発行とさせていただきます。
【編集部】



3つの闘争報告と鈴木一さん(円内)の講演を聞いた23春闘講座=3月1日、兵庫県民会館

3月8日は国連が制定した「国際女性デー」だった。マスコミもエンターテインメントに関する報道がこれまでより多かったが、日常からもっと取り上げて欲しい課題だ。教育、健康、経済、政治分野の女性の参加状況を世界的にみると日本の男女平等度「ジェンダーギャップ指数」は相変わらず低位だ。22年は146か国中116位、主要7か国(G7)では最下位である。大きな要因は女性の政治参加が極端に低いことだ。全国の地方議会で女性が1人以下の議員は38%、50歳未満の女性議員は3%弱(朝日新聞)、兵庫県内41市町の内14市町でゼロか1人(神戸新聞)となっている。4月の統一自治体選挙で数値の改善を望みたい。日本は国連女性差別撤廃条約を批准しているが、効力を上げる「議定書」については女性団体や地方議会から意見書が政府に上り続けているが批准していない。各自治体の男女共同参画センターは男女平等社会をめざす拠点だが創設当時の意義が問われている。「あらゆる分野に女性を3割」の目標はいつ達成されるのか。旧統一教会による男女平等政策への干渉。政治家を使い家制度へ女性を押し込める政治勢力とそれと結託した政党は許せない。毎日が女性デーだ。

水脈

3月8日は国連が制定した「国際女性デー」だった。マスコミもエンターテインメントに関する報道がこれまでより多かったが、日常からもっと取り上げて欲しい課題だ。教育、健康、経済、政治分野の女性の参加状況を世界的にみると日本の男女平等度「ジェンダーギャップ指数」は相変わらず低位だ。22年は146か国中116位、主要7か国(G7)では最下位である。大きな要因は女性の政治参加が極端に低いことだ。全国の地方議会で女性が1人以下の議員は38%、50歳未満の女性議員は3%弱(朝日新聞)、兵庫県内41市町の内14市町でゼロか1人(神戸新聞)となっている。4月の統一自治体選挙で数値の改善を望みたい。日本は国連女性差別撤廃条約を批准しているが、効力を上げる「議定書」については女性団体や地方議会から意見書が政府に上り続けているが批准していない。各自治体の男女共同参画センターは男女平等社会をめざす拠点だが創設当時の意義が問われている。「あらゆる分野に女性を3割」の目標はいつ達成されるのか。旧統一教会による男女平等政策への干渉。政治家を使い家制度へ女性を押し込める政治勢力とそれと結託した政党は許せない。毎日が女性デーだ。



# 「終わらないフクシマ」 原発事故から12年のつどい

## 脱原発はりまアクションが開催

脱原発はりまアクションは3月4日、「終わらないフクシマ」をテーマに、「福島原発事故から12年のつどい」を東加古川総合庁舎内で開催した。

脱原発はりまアクションを被ばくから守るために子ども脱被ばく裁判・311子ども甲状腺がん裁判で学んだこと」と題してこれらの裁判に携わる井戸謙一弁護士(写真)と福島原発事故避難



子どもの被ばく裁判に携わる井戸謙一弁護士(写真内)の講演に学んだ=3月4日、加古川市

者A・Aさんからの報告が行われた。

井戸弁護士は、「裁判では、国や東電は被ばくの危険を知らせず、被ばく量も調査せず、住民を避難させない、つまり、被ばく者縛り付け政策」をとってきたことがわかったと報告。福島県は、事故後に県のアドバイザーに山下俊一氏(長崎大学副学長など)を着任させ、「放射能は安全だ」と講演させて回り、それによってたくさんの方が被ばくさせられた。また、「被ばくによる健康被害はない」とも決めつけ、被ばくの不安を口にする人を「風評加害者」と攻撃して孤立させてきたと

も指摘。「私たちが生きる社会がこんな社会でいいのか」と締めくくった。

避難者のA・Aさん(学生)は「原発事故から考える私たちの未来」と題して報告。「この12年間、被災の記憶にふたをしてきた。放射能の危険についてのとらえ方の違いから友だちでなくなるこのつらさも体験した。急性骨髄白血病になり倒れた祖父を看病するために福島に戻ると鼻血が出て体調が悪くなった(祖父はその後死亡)。原発事故による健康被害の不安は消えない。これから子どもたちには私と同じ思いをしてほしくない」と訴えた。

福島原発事故から12年。原発事故は決して「福島のこと」や「遠く東北のこと」ではない。原発回帰にはく進する岸田政権

# 非正規労働者の賃上げを パート春闘アクションで訴え

## 兵庫県パート・ユニオンネットワーク

と関電を許してはならないとの思いを改めて強くするつどいとなった。

菅野逸雄(脱原発はりまアクション)



「生活できる賃金を」「時給1500円の実現」などを訴えてデモ行進=2月23日、神戸市中央区

高騰に見合った最低賃金の引上げを」。物価が高騰し生活を圧迫する中、とりわけその影響が大きい非正規労働者の賃上げを求める「パート春闘アクション」が2月23日、県内の地域ユニオンや自治体で働く非正規公務員らでつくる兵庫県パート・ユニオンネットワークによって行われた。

午前中は尼崎(神戸三宮)、明石、姫路の4か所のJR駅前で、ピラ配置とマイクリレーで最低賃金の引き上げや時給1500円の実現などを求める訴えを行った。

午後からは神戸市中央区の東遊園地・花時計前に集結して集会を開き、

集会後は、元町の丸前までのデモコースを、最賃の引上げを、「生活できる賃金を」「時給1500円の実現を」などの要求を書いた横断幕やプラカードを掲げてデモ行進を行った。

遠来の但馬ユニオンをはじめ各地のユニオンや労働組合からの活動報告や決意の表明を受け共有した。

今年は政府も経団連も賃上げを訴え、トヨタやホンダなどの自動車大手は集中回答を待たずに満額回答を示しているが、格差がつけ続けられてきた非正規労働者の賃上げをしない限り社会全体の賃上げとはならない。

# 大軍拡への暴走を許すな

## 「共同テーブル近畿」が近畿集會

共同テーブル近畿が主催する「大軍拡への暴走を許すな」近畿集會が2月23日、大阪市のPLP会館で開かれた。集會には約1000人が参加。

で始まった集會では、瀬戸厚さん(山口大学名誉教授)の講演と与那国島で活動する山田和幸さんの現地報告があった。

共同テーブル近畿の呼びかけ人である池田直樹弁護士は主催者あいさつ

を引き続いて、フリージャーナリストの西谷文和さんのコーディネートで、瀬戸、山田の両氏に加え、木戸衛一さん(大阪大学教授)、I(アイ)女性

ら、ミサイル基地を軸に島全体の要塞化がすすむ与那国の現状が報告された。自衛隊員が目立つようになると離島の準備を始める市民も出始めていることや、昨年11月には小中学校生を対象にしたミサイル避難訓練が、何の事前連絡もなく実施されたことが報告された。

また、山田さんは中学生の修学旅行先が台湾の花蓮市であることや台湾、



ジャーナリストの西谷文和さんコーディネートのパネルディスカッションもあった近畿集會=2月23日、大阪市

中国、ベトナムなどとの交易の歴史に触れながら、「市民レベルでアジアとのつながりを強め与那国を東アジア平和交流の島

にしていきたい」と述べ、与那国を軍事要塞の島にしないために「今後も交流を」と呼びかけた。

(鍋島)

(菊地)

## 介護保険制度

# 神戸市の出前トークで学習会

## ろっこう医療生協と安心ネットが共催

少子高齢化の加速で岸田政権が過去最悪の介護保険制度見直しを検討しているなか、ろっこう医療生活協同組合と安心ネットは3月9日、神戸市介護保険課の出前トークで介護保険制度についての学習会を開いた。

「親の老後、私の老後は大丈夫？」をテーマに神戸市介護保険課係長の中島由紀子さんから介護保険事業計画の説明を受けた。中島さんはまず、

計で保険料は月額7100円と見込まれるとした。参加者からは、「年金からの保険料の天引きは負担感が大きい。介護保険財政にもっと公費を」と認定調査員に「もっと頑張らなければ」と不適切な発言が見受けられる。調査員の資質の向上を「訪問介護では60代、70代のヘルパーが多いが、家族を養える賃金に引き上げ、若いヘルパーが働ける場」などの意見や要望が出された。

計で保険料は月額7100円と見込まれるとした。参加者からは、「年金からの保険料の天引きは負担感が大きい。介護保険財政にもっと公費を」と認定調査員に「もっと頑張らなければ」と不適切な発言が見受けられる。調査員の資質の向上を「訪問介護では60代、70代のヘルパーが多いが、家族を養える賃金に引き上げ、若いヘルパーが働ける場」などの意見や要望が出された。

計で保険料は月額7100円と見込まれるとした。参加者からは、「年金からの保険料の天引きは負担感が大きい。介護保険財政にもっと公費を」と認定調査員に「もっと頑張らなければ」と不適切な発言が見受けられる。調査員の資質の向上を「訪問介護では60代、70代のヘルパーが多いが、家族を養える賃金に引き上げ、若いヘルパーが働ける場」などの意見や要望が出された。

計で保険料は月額7100円と見込まれるとした。参加者からは、「年金からの保険料の天引きは負担感が大きい。介護保険財政にもっと公費を」と認定調査員に「もっと頑張らなければ」と不適切な発言が見受けられる。調査員の資質の向上を「訪問介護では60代、70代のヘルパーが多いが、家族を養える賃金に引き上げ、若いヘルパーが働ける場」などの意見や要望が出された。



飲食店勤務で、うつ状態で休職中の女性(22歳)から、休職中に社会保険と雇用保険を打ち切られたと相談があった。

「相談者のことを思っていると主張。雇用形態の不利益変更も、法律の限度を超えた長時間労働も、休日日数も法律に違反しているが、「自分は悪くない」と主張した。

相談者は、「職場の人間関係が良く、働きたかった。残業代も出していたからいい会社だと思っていた」と言う。少しでも残業手当を支払われていると、正確な金額ではなくても「サービスマン業が面白い、いい会社」となるのだらう。

# 労働法に無知なダメな経営者

「平日+平日1日」で計算されていた。所定労働時間は1日8時間シフトだが、月の休日は6日しかない。これでは病気になる。

これが「普通」になる社にしたい。労働法のテストをクリアできない経営者は経営者失格企業として公表するような制度が必要だと思ふ。

木村文子(神戸ワーカースユニオン書記長)

木村文子(神戸ワーカースユニオン書記長)

木村文子(神戸ワーカースユニオン書記長)

木村文子(神戸ワーカースユニオン書記長)

# おんなの目

「福島原発事故から12年のつづい」に参加した加

3月4日に加古川市で開催された「福島原発事故から12年のつづい」に参加しました。主な内容は、「子ども脱被ばく裁判」や「311子ども甲状腺裁判」に関する井戸謙一弁護士の講演と原発事故避難者A・Aさん(23歳)の報告でした。

2011年3月に発生した東日本大震災、それに続く「東京電力福島第1原発の爆発事故」からもうすでに12年も経ったのです。私は、あの原発事故直後の5月から市民団体「脱原発はりまアクション」に参加して活動してきました。思い起せば、結成時は映画会や、脱原発課題では珍しい加古川駅前の集会やデモなどたくさんありました。今も毎月11日を「東電原発事故は終わっていない行動日」として、放射能の影響、怖さ、危険性などを訴えています。

訴訟を支援しています。この裁判は、福島の子どもたちが「放射能を避けたい」という思いで立ち上がった裁判です。

今なお、福島では高濃度の放射線が街中をさまよっています。もう何年か前から行政の宣伝もあり、市民の中では「放射能のことは問題ないよね?」「避難する人はおかも諦めず」

岸田政権は、実際に事故を起こしてしまった福島原発事故の責任を全く取っていないにもかかわらず、原発の新設や再稼働を強引に進めるため「政府が責任を取る」と嘘を撒き散らしています。今は戦争状態で詳細はわかりませんが、チェルノブイリ原発事故(1986年9月)では、ウクライナ、ベラルーシは国を挙げて「保護」を何十年も続けていたのです。日本の政府と大違いです。

## フクシマは終わっていない

「大人が諦めたら子どもも諦めず」最後にありますが、3月4日の「つづい」の中で、井戸弁護士がまとめて最後に報告された「わかかなさん(仮名、15歳)の言葉」が胸に突き刺さっています。「大人が諦めないでください。大人が諦めたら子どもも諦めます」——。2011年3月16日は、福島県の高校内学発表の日でしたが、原発の爆発直後で放射線量が高く、担任の先生も悩んで校長先生に「発表延期」を訴えたそうです。校長先生は完全に無視したのですが、担任の先生は「皆にたくさん被ばくさせた」と謝ったそうです。そのような中で言葉だったと紹介されました。

私もこの言葉を胸に、これからは少しづつですが子どもや孫たちを守るため歩んでいきたいと思っています。(菅野順子)

## 神戸市会に絶対必要な議員

### 小林るみ子サポーターズ総決起集会



中川智子・元宝塚市長らの応援エールを受け、決意表明する小林るみ子神戸市議＝3月11日

小林るみ子神戸市議のサポーターズ総決起集会が3月11日、灘区内で開催された。

「3・11」という日に因み、集会は震災犠牲者への黙とうから始まった。サポーターズリーダーの立川重則さんのあいさつの後、介護問題、王子公園再整備問題、地域ユニオン運動、医療問題と小林さんが関わってきた各分野の運動から小林さんを応援するスピーチがつづいた。貧困問題に取り組む藤田孝典さんからの応援メッセージも紹介された。

山口みさえ芦屋市議の決意を述べる山口みさえ芦屋市議＝3月4日



山口みさえ芦屋市議の後援会「みさえ広場」は3月4日、落語家の露の新治さんを迎えて「人権のつづい」を開催、支援者約60人が参加した。後援会長の小田さんは、「山口さんは、地域で」

## 露の新治さんを迎え「人権のつづい」を開催

### みさえ広場(山口みさえ後援会)

「新ちゃんのお笑い人権高座」では、露の新治さんが「老い」を切り口に、自身でどうしようもないことでも人を判断することをおかしさを笑い交えて話した。根拠のない「血筋」で差別することの無意味さにも触れ、「平和・

## ラーゲリより愛を込めて

原作は、辺見じゅん氏の『収容所から来た遺書』である。1989年に本作で講談社ノンフィクション賞受賞。翌年、大宅壮一ノンフィクション賞を受賞したロングセラー作品である(2022年までに25万部が発行され、読み続けられている)。

「とんぼ」などの作品がある瀬々敬久である。瀬々監督が「これは、国民映画にしなければいけない」との思いで撮ったものである。

物語は、第2次世界大戦終了後のロシアで約60万人の日本人がシベリアの強制収容所(ラーゲリ)に不当抑留される様を描いている。あまりにも過酷な日々を絶望する状況の中で一人、希望を捨てずに生きようとした男

山本幡男(はたお)が書いた遺書にまつわる事実に基づいたものである。

田(松坂桃李)。旧日本軍での階級をふりかざす軍曹の相沢(桐谷健太)。クロという子犬をかわいがる青年、新谷(中島健

抑留から8年が経ち、山本に妻・モジミからの葉書が届く。検閲をくぐり抜けた葉書には「あなたへの帰りを待っています」と。妻を想い、山本は涙を流さずにはいられなかった。

本作は、山本の願いをかなえようとする仲間たちを描く感動作で、昨年12月からのロングラン上映となっている。

## シネマランド

### 強制収容所でも希望を捨てなかつた男の遺書は...



を信じて耐えていた。過酷な状況下の中で、希望を持ってにいた仲間たち。戦争で心に傷を負い、仲間から目を背ける男、松

だが、その頃には山本の体は病に侵されて、余命3ヶ月を医師から告

監督 瀬々敬久 / 2022年 / 日本 / 133分

監督 瀬々敬久 / 2022年 / 日本 / 133分